

1 研究主題

自国と他国の文化を学び、主体的に関わろうとする児童の育成

～地域の特性を生かした国際教育を通して～

本校は、平成26年度より中央区国際教育推進パイロット校の指定を受け、国際教育に関する先進的な研究・開発を行い、その成果を区内小学校に広めてきた。また、平成28年度より文部科学省教育課程特例校の指定を受け、これまでの英語活動を英語科・国際科とし、1・2年週2時間、3年以上週3時間を英語と国際科の学習として時間を確保し、外部講師としてLCA国際小学校の教師、区英語講師と連携しながら英語学習を進めている。

今年度からは、更に研究の幅を広げ、英語科に加えてその両輪を成している国際科の指導法についても研究を進める。国際科では、本校の位置する日本橋という町のもつ「祭り」、「老舗」、「金融」「町づくり」といった町の魅力を生かし、それを支える人々や訪れる人々の思いを調べる。更にそこにある課題を見つけ、自ら解決していこうとする力を育成したい。町のもの、人と関わりながら、課題解決に向けて探求的な活動を繰り返すことが、自国と他国の文化に主体的に関わろうとする意欲を支える一翼となるものと考えられる。

更に本校では、英語科と国際科の両輪を上手く横断的に学びながら課題解決を繰り返すことで、国際的な視野をもつ児童を育成する。

今年度は国際科の研究初年度として、国際科の研究を「課題設定」の段階に絞り、どのような手立てにより児童が自ら課題を設定するために有効か、単元導入の効果的な手立てのあり方に焦点を絞って研究を進める。

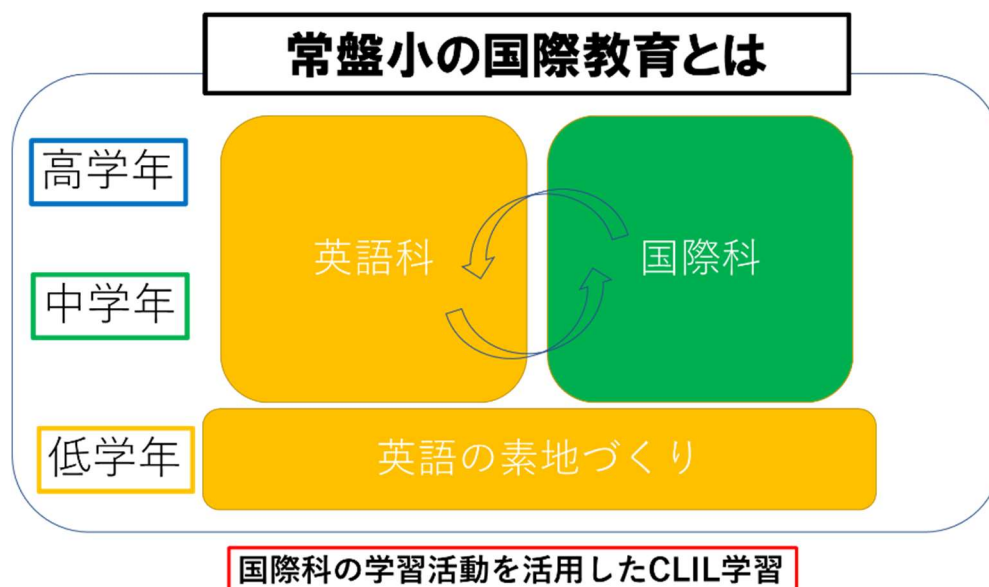
図1「本校の国際教育に関する週時数」

	英語科	国際科	総合的な学習の時間
低学年	2	0	
中学年	3	1	0
高学年	3	1	1

2 研究仮説

以下の2つの力を大切にしたい指導を行うことで主題、副主題にあるような主体性をもった児童の育成が可能となると考える。

- ① 自分の思いを英語で発信する力
- ② 英語科で培ったコミュニケーション能力を生かし、自国と他国の文化に関する体験的な学習や問題解決的な学習を通して、情報を収集、整理した上で問題に柔軟に対処する力



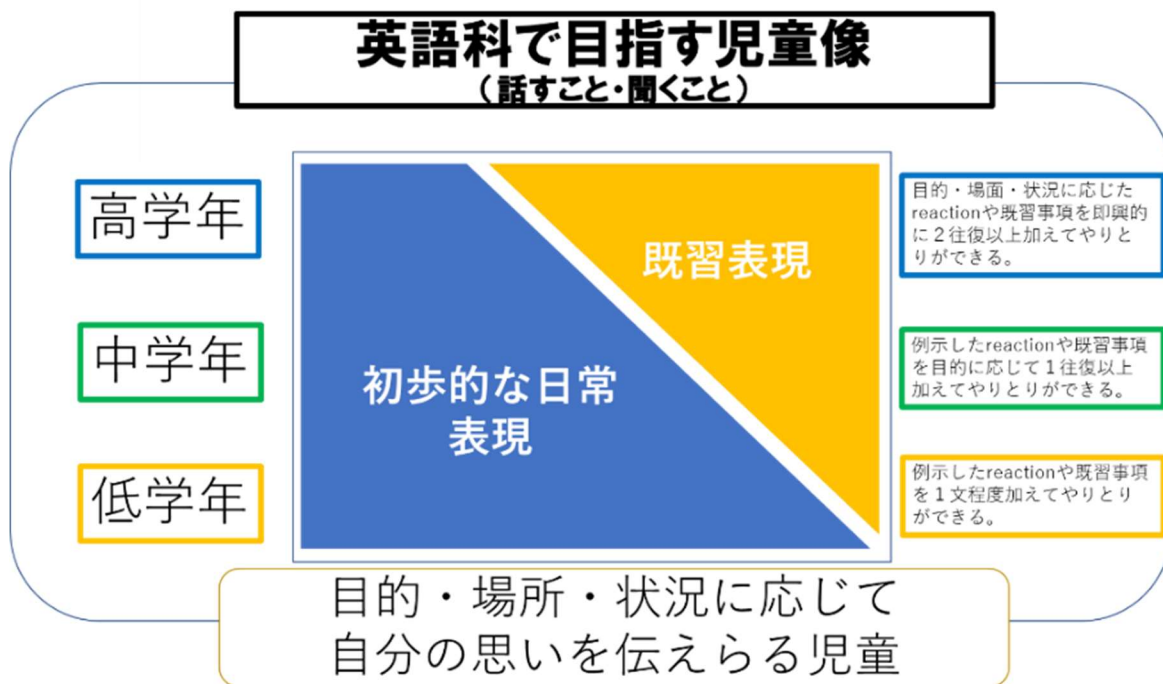
3 目指す児童像

① 英語科で目指す児童像

<話すこと・聞くこと>

- ・ 初歩的な日常表現を用いて話したり、聞いたりできる。
- ・ 目的・場面・状況に応じ、既習事項を用いて話したり、聞いたりできる。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新出の日常表現を用いて、簡単なやりとりを行うことができる。 ・ 例示した reaction や既習事項を1文程度加えてやりとりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新出の日常表現を用いて簡単なやりとりを行うことができる。 ・ 例示した reaction や既習事項を目的に応じて1往復以上加えてやりとりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新出の日常表現を用いて簡単なやりとりを行うことができる。 ・ 目的・場面・状況に応じ reaction や既習事項を即興的に2往復以上加えてやりとりができる。



<読むこと・書くこと>

学年	目指す児童像
2	アルファベットや3文字前後の単語を書き写す。
3	4線の上に大文字、小文字を整えて書くことができる。 (国語科のローマ字指導と合科的な学びを通して)
4	4線の上に3文字前後の単語を書き写すことができる。
5	文構造に応じた書き方を用いて、4線の上に文章を書き写すことができる。
6	4線の上に文を書くことができる。

② 国際科で目指す児童像 <課題設定の場面において>

日本橋の街がもつ魅力を知り、更に知りたいこと、解決したい課題を見つけることができる児童。
(伝統文化教育)

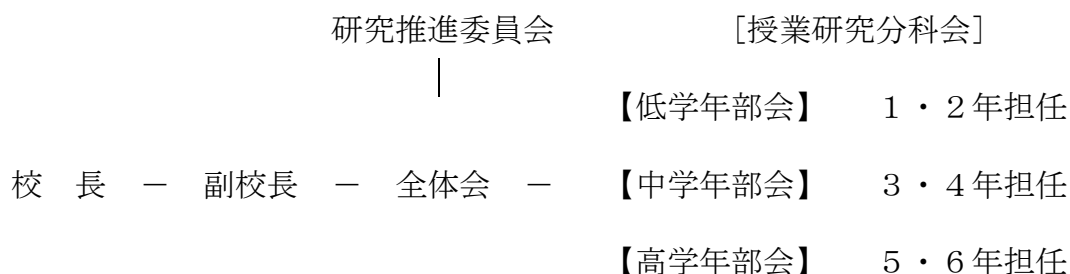
中学年	高学年
・サンプル学習を生かして、地域の学習材についてもっと知りたいこと、解決したい課題を自ら見つけられる児童。	・地域の学習材について知り、更に知りたいこと、解決したい課題を自ら設定できる児童。

国際科のスタートになる中学年では、教科横断型の学習のあり方、「課題設定」「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の学習過程に慣れるよう、大単元の前半に地域の学習材を生かし、一つの課題を全体で解決する。(サンプル学習) それを生かして、大単元の後半では、自ら課題を設定し、その解決までを自力で行う。この学習過程を繰り返すことで、国際科の学習方略を身に付けられるようにする。(サンプル学習を生かした自力解決の力の促進)

高学年では、多岐にわたる国際科の学び方から自ら取捨選択して問題解決する児童を育成するための手立てとして、各学習段階において、児童にどのような学び方の選択肢があるかを明確にして学習過程を進める。(選択肢の明確化による自力解決の力の促進)



4 研究組織



7 研究日程

	月 日	形 態	内 容
1 学期	4月 3日(月)	実技研1	Quick Time、ORT Time の進め方
	4日(火)	研 推1	今年度の研究主題、研究構想図、目指す児童像の検討
	12日(水)	全体会①	英語科指導計画、研究主題の検討
	20日(木)	研 推2	指導案検討① (5/17)
	5月 8日(月)	研 推3	指導案検討② (5/17)
	17日(水)	全体会②	授業研究 ① (5年) 講師 佐藤 久美子先生
	6月 1日(木)	研 推4	指導案検討③ (6/21)
	12日(金)	研 推5	指導案検討④ (6/21)
	21日(水)	全体会③	授業研究 ② (3年) 講師 佐藤 久美子先生
	29日(木)	研 推6	指導案検討⑤ (9/20)
7月20日(木)	実技研2	梶井 貢先生 国際科講演? Teacher Talk①、Practice/Activity の進め方	
2 学期	9月12日(火)	研 推7	指導案検討⑥ (9/20)
	20日(水)	全体会④	授業研究 ③ (2年) 講師 佐藤 久美子先生
	10月 5日(木)	研 推8	指導案検討⑦ (10/25)
	18日(水)	研 推9	指導案検討⑧ (10/25)
	25日(水)	全体会⑤	授業研究 ④ (1年) 講師 佐藤 久美子先生
	19日(木)	研 推10	指導案検討⑨ (11/15)
	11月 1日(水)	実技研3	ORT、Practice/Activity の進め方
	6日(月)	研 推11	指導案検討⑩ (11/15)
	15日(水)	全体会⑥	授業研究 ⑤ (6年) 講師 梶井 貢先生
	12月11日(月)	研 推12	指導案検討⑪ (1/24)、研究集録のまとめ方
3 学期	1月 9日(金)	研 推13	指導案検討⑫ (1/24)
	24日(水)	全体会⑦	授業研究 ⑥ (4年) 講師 梶井 貢先生
	2月 1日(木)	研 推14	今年度の研究の成果と課題
	28日(水)	全体会⑧	研究のまとめ、来年度の研究計画
	29日(木)	研 推15	来年度の研究計画

8 教員研修計画

- | | | | |
|---|-------|------|----------------------------|
| ① | 4月3日 | 実技研① | QT、朝の会帰りの会 |
| ② | 4月中随時 | | 転入教員の QT や英語 H の授業の参観 |
| ③ | 7月20日 | 実技研② | 国際科について、講師の講演 |
| ④ | 11月1日 | 実技研③ | ORT、Practice/Activity の進め方 |